

病理

名古屋大学医学部附属病院



病院長名	石黒 直樹
所在地	〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地
交通案内	JR中央線「鶴舞駅(名大病院口)」下車 徒歩3分 名古屋営地下鉄「鶴舞駅」下車 徒歩8分

病院の特徴

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、『総合医学教育センター』を設置するとともに、2008年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、『卒後臨床研修・キャリア形成支援センター』として機能充実を図り、研修サポート体制の拡充を行った。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになった。すなわち、2年間の初期研修のみならず、後期・専門研修のキャリアパス整備とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言える。各種教育ツールを一括管理してシミュレーションによるトレーニングを進めるとともに、OJT(On the Job Training)を重視して臨床手技の習得が速やかに行われるように力を注いでいる。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋大学医学部病理専門研修プログラム

【研修目標】

診断技能のみならず、臨床検査技師や臨床医との連携や難解症例の扱いを習得することにより、地域基幹病院にて即戦力として活躍することが期待できる一方で、教育者や研究者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことが望まれる。

【研修期間】

3年

【研修スケジュール】

パターン①

(大学院に進学するパターン)

1年目:基幹施設+連携施設(週1-2日)

2年目:基幹施設+連携施設(週1-2日)

3年目:基幹施設+連携施設(週1-2日)

パターン②

(基本的なパターン。基幹施設を中心として1年間のローテーションを行うプログラム。)

1年目:基幹施設での研修。

希望に応じて連携施設(週1-2日)での研修も可能。

2・3年目:1群連携施設を基本とするが、希望に応じて引き続き基幹施設での研修が可能。

パターン③

(1群連携施設で専門研修を開始するパターン。2年目以降で集中的に基幹施設で研修するプログラム)

1年目:1群専門研修連携施設で研修を行う。コンサルテーションなど必要時には基幹施設での研修も行う。

2あるいは3年目:基幹施設での研修。

希望に応じて連携施設(週1-2日)での研修も可能。

パターン④

(1群連携施設での研修を中心とし、基幹施設での研修は定期的に複数回に分けて行うパターン)

1-3年目:1群専門研修連携施設で研修を行う。週1回程度定期的に基幹施設での研修を行い、必要に応じてコンサルテーションやCPCなどの機会で基幹施設での研修を行う。研修の中心となる1群連携施設が基幹施設でもある名古屋第一赤十字病院の場合は、それ以外の連携施設での研修が全体として1年間確保できるようローテーションのスケジュールを組む。

パターン⑤

(転向者向け。他の基本領域専門医資格保持者が病理専門研修を開始する場合に限定した対応パターン)

1年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)

2年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)

3年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)

主な連携施設

国立病院機構名古屋医療センター、名古屋第二赤十字病院、中京病院、県立多治見病院、中部労災病院、名古屋掖済会病院、岡崎市民病院、公立陶生病院、安城更生病院、豊橋市民病院、刈谷豊田総合病院、江南厚生病院、市立半田病院、総合病院南生協病院、市立四日市病院、豊田厚生病院、土岐市立総合病院、一宮市立市民病院、海南病院、名鉄病院、大垣市民病院、西尾市民病院、名古屋共立病院、八千代病院、春日井市民病院、稲沢市民病院、東海中央病院、岐阜赤十字病院

メッセージ

指導医

講師 **中黒 匡人**

豊富な指導教官による充実した指導と多彩な症例を経験することにより、安定して確実な診断を行える技能を習得することに重きを置いている。

一人の専攻医を常に複数の指導医が指導・評価を行うことにより、専攻医の技能習得状況を正確に把握しながら、適切な症例数を偏りのない内容で提供することが可能であり、各専攻医を信頼に足る病理専門医に確実に育てることを目指している。

募集要項

採用予定人数	年平均10人
給与/月額	月額約20万円に加え、該当する場合に手当(通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、特殊勤務手当(夜間診療業務手当等))を支給
当直回数/月	0回/月
当直料/回	20,000円/回
その他	平日日勤帯の外勤等(週1日まで)可
応募連絡先	担当者 中村 栄男
	電話番号 052-744-2648
	Eメール byouribu2@med.nagoya-u.ac.jp

名古屋市立大学病院



病院長名	小椋 祐一郎
所在地	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
交通案内	地下鉄：桜山駅下車3番出口 直結 市バス：「市立大学病院」または「市立大学病院」下車

病院の特徴

当院は808床の病床、30の診療科を有し、地域の中核医療機関として日々安全で開かれた医療を提供しています。

外来診療棟、病棟・中央診療棟に続き、近年増加するがん患者さんに対し、高度な診断や先端治療を併用する集学的な治療が行えるように、平成24年には喜谷記念がん治療センター（東棟）を開院しました。がん診療拠点病院や救命救急センターの指定・認定を受けると共に、高度急性期病院・特定機能病院としての役割を果たすよう努めると共に、教育研究機関として優れた医療人の育成に努めています。

研修プログラムの特徴

名古屋市立大学医学部病理専門研修プログラムでは毎年4名（3年間で延べ12名）の専攻医を受け入れることが可能です。20施設以上の連携病院との交流により、病理専門医試験受験に必要な数の症例はもちろん、稀な症例を数多く経験することができます。臓器ごとに専門の病理医が指導しますので、より専門性の高い研修を受けることも可能です。また教育・研究機関である大学が基幹施設のため、病理研修と並行して医学研究に携わることでも、学位（医学博士）の取得も推奨しています。

<研修モデル>

- パターンA 基幹施設重点型+連携施設1・2群を週1-2日
+連携施設1・2群を3年内のいずれかの時期6ヶ月間
- パターンB 連携施設1・2群重点型+基幹施設を週1-2日
+基幹施設を3年内のいずれかの時期6ヶ月間
- パターンC 1年目、連携施設1・2群に重点を置き、
2-3年目、基幹施設に重点を置く
- パターンC* 1-2年目、連携施設1・2群に重点を置き、
3年目、基幹施設に重点を置く
- パターンD 1年目、基幹施設に重点を置き、
2-3年目、連携施設1・2群に重点を置く
- パターンD* 1-2年目、基幹施設に重点を置き、
3年目、連携施設1・2群に重点を置く

各パターンとも不足分野を補えるよう、状況に応じて柔軟に対応します。

詳細は名古屋市立大学病院総合研修センターHPを参照
http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kensyu-c.dir/specialist_prg/dept.html



主な連携施設

- 名古屋第一赤十字病院
- 名古屋第二赤十字病院
- 名古屋医療センター
- 公立陶生病院
- 名古屋掖済会病院
- 名古屋市立東部医療センター
- 名古屋市立西部医療センター
- など全20余施設

メッセージ

病理医とは病変の「最終診断」を行う医師である。

病理診断部 部長 稲垣 宏



病理医が主人公のTVドラマが放映され話題となりましたが、病理診断は今、医療を支える重要な分野として大きな注目を集めています。病理医の最も重要な役割は、病変の「最終診断」を行い、治療の方向性を決定することです。病理診断は医師として大変やりがいがあります。

募集要項

採用予定人数	数十人 ※全領域あわせた人数であり、領域別の詳細の人数は各プログラム責任者と相談の上決定	
給与/月額	228,000円～478,000円 (勤務区分・各診療科の外勤の状況により異なる)	
当直回数/月	4回程度(診療科により異なる)	
当直料/回	24,000円～34,000円	
その他	年間有給休暇20日間、通勤手当、協会けんぽ、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等あり	
応募連絡先	担当者	医学・病院管理部教育研究課医療人育成係 専攻医募集担当
	電話番号	052-853-8545
	Eメール	s-kensyu@med.nagoya-cu.ac.jp

※名古屋市立大学病院で勤務する場合

藤田保健衛生大学病院

平成30年1月 新棟オープン



病院長名 湯澤 由紀夫

所在地 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

交通案内 名鉄線名古屋駅より(22分)前後駅下車、名鉄バス(15分)「大学病院」下車 / 桜通線名古屋駅より(35分)徳重駅下車、名古屋市営バス徳重13系統または名鉄バス(16分)「大学病院」下車 / 鶴舞線伏見駅より(21分)原駅下車、名古屋市営バス徳重13系統(33分)「大学病院」下車

病院の特徴

当院は名古屋市に隣接しており、道路を渡ると名古屋市という好立地にあります。多種多様な疾患に対応しており、DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」で当院のDPC件数が全国の大学病院の中で第1位となりました。(平成26・27年度)

当病理診断科は年間約16,000件の組織診断、10,000件の細胞診断にあたっており、全臓器にわたる豊富な症例の経験が可能です。全国の大学病院の中では比較的病理解剖例にも恵まれており、死体解剖資格取得や病理専門医試験に対する修練も容易です。院内では積極的に多種多様なカンファレンス、カンサーボードに参加しており、実践的で多方面にわたる病理診断を経験できます。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

藤田保健衛生大学病院病理専門研修プログラム

【研修目標】

幅の広い臨床医学の全領域をカバーするジェネラルパソロジストとして活躍できる人材の育成、かつ将来の専門領域を見据えたサブスペシャリティにも目標を設定しての研修。

【研修期間】

3年

【研修スケジュール】

パターン①藤田保健衛生大学パターン

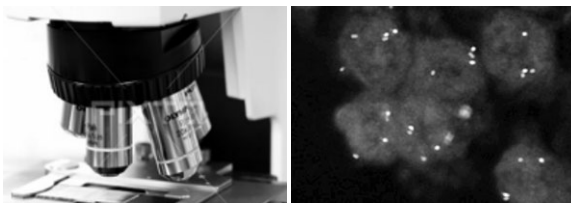
1年目～3年目のいずれかの期間3か月を当院の分院である藤田保健衛生大学医学部第二教育病院で研修する。本プログラムでは、専攻医が大学院に進学し、大学院生として病理研修と解剖をしながら研究も行うスタイルも可能となっている。

パターン②転向者向け(他の基本領域専門医資格保持者が病理専門研修を開始する場合に限定した対応パターン)

1年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)

2年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)

3年目:連携施設+基幹施設(週1日以上)



主な連携施設

藤田保健衛生大学医学部第二教育病院(坂文種報徳會会病院)

大同病院

トヨタ記念病院

名古屋記念病院

浜松赤十字病院

静岡赤十字病院

メッセージ

指導医

病理診断科 准教授 浦野 誠



病理診断は医療において最終診断の役割を担っており、極めて重要な役割を果たしています。しかし正確で迅速な病理診断は病理医単独で行えるものではなく、臨床医、病理技師等との円滑な連携が必要です。当院病理診断科の研修システムにおいては、経験豊かな

スタッフの指導のもとで、多種多様で豊富な症例の診断を実践することができます。またCPC、臨床各科とのカンファレンス、カンサーボードも充実しており、幅広く深い知識と技量を身に着けることができます。昨今、病理解剖数の減少が病理医育成の妨げになっていますが、当院は関連施設の症例も合わせて比較的多くの病理解剖を短期間で経験することができます。経験した貴重な症例は積極的に学会発表、論文作成に結びつけることを推奨し、その指導にあたります。ある期間、臨床科を経験した方の病理への転向向も歓迎しています。現在日本国内で実働している病理専門医は2000人余りで、この数少ない専門家集団が医療の質を支えています。また、これからの病理医は形態学的な診断だけでなく分子病理学の知識に基づいてのゲノム医療やプレジジョンメディスンへの積極的な貢献が求められており、非常にやりがいのある職種です。若くて活気に満ちた皆さんの参加を待っています。

募集要項

採用予定人数	3人
給与/月額	基本給:月額268,840円 別途、賞与、その他各種手当、その他支給あり
当直回数/月	無し
当直料/回	当直12,000円/回 オンコール手当7,000円/回
その他	
応募連絡先	担当者 浦野 誠
	電話番号 0562-93-9016・2319
	Eメール uranom@fujita-hu.ac.jp

愛知医科大学病院



病院長名	羽生田 正行
所在地	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
交通案内	地下鉄東山線藤が丘駅下車 病院行き名鉄バスで約20分 東名高速名古屋ICから車で約15分

病院の特徴

当院は1974年に開院した大学病院です。充実した設備と最新の診療体制を整え、名古屋市東部の中核医療施設として地域医療に幅広く貢献しています。特定機能病院、高度救命救急センター、基幹災害医療センターなどに指定され、2017年5月1日付けでNPO法人卒後臨床研修評価機構の定める認定基準を達成していると施設として4年認定の更新がされました。

2014年5月に新病院が開院し、「元気ホスピタル～あなたを元気にする。私も元気になる」を病院のスローガンに、職員一丸となって日々精進しています。先進医療と最適な医療環境を提供し、患者さんが元気になって頂く事はもちろん、医療体制の分業化や本来業務」の特化を図る事で、医療従事者も効率的に働ける病院を目指しています。

研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

愛知医科大学医学部 病理専門研修プログラム

【研修目標】

臨床に即した病理診断が行える知識及び技術を習得する。病理専門医及び細胞診専門医を取得する。学会発表及び学術論文作成が出来る知識を習得する。

【研修期間】

4年

【研修スケジュール】

〈外科病理トレーニング〉

午前:毎朝8時30分より、スタッフ全員で行う診断チェックに参加する。

その後、手術標本の切り出しを行う。

午後:自らが切り出した標本の検鏡行う。随時抄読会を行う。

〈病理解剖トレーニング〉

死体解剖資格取得前:剖検数が5体までは、上級医の剖検の補助をしながら、剖検手技を習得する。それ以降は、主執刀医として優先的に解剖を行う。剖検診断書の作成の技能を習得する。

死体解剖資格取得後:スタッフと同様の剖検態勢に入る。



◀病理診断の現場

主な連携施設

南生協病院	岡崎市民病院
名古屋掖済会病院	名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院	公立陶生病院
東濃厚生病院	

メッセージ

指導医
教授 都築 豊徳



病理診断は現代医療に欠かせない領域で、腫瘍、炎症、変性疾患、感染症に至るまで広い領域を網羅しています。病理診断が治療方針決定の根幹となる領域が多数あり、その診断精度は医療機関の充実度を測る目安とされています。病理医の世間的な認知度は高くないためか、全国的に病理医の絶対数は不足しています。それとともに、現代の医療の高度化により、質の高い病理医の育成は急務とされています。

私たちの教室では多数の指導医の元に、専門医希望の医師が適格な病理診断が行える知識及び技能を習得できる態勢を整えています。また、最新の機器を揃えており、現代の病理診断に必要とされる免疫組織染色及び遺伝子検査が日常的に行われています。当教室で研修される医師はこれらの最新の知識及びその解釈が学習できる態勢にあります。併せて、学会発表及び論文作成の指導も行っています。

病理医は臨床全体を見渡すことが出来る数少ない臨床科です。私たちとともに日本の医療に貢献してみませんか？

募集要項

採用予定人数	2人
給与/月額	基本給167,200円 +地域手当+調整加算手当等 約56,000円
当直回数/月	
当直料/回	(救急外来)宿直手当 約32,000円 (病棟)宿直手当 20,000円
その他	通勤手当、住宅手当、扶養手当、賞与(年2回)、社会保険等(日本私立学校振興・共済事業団(健保・年金))、健康診断 ※診療科から外勤の斡旋があります。
応募連絡先	担当者 都築 豊徳
	電話番号 0561-78-6302
	Eメール tsuzuki@aichi-med-u.ac.jp